

## 議会からの新年挨拶（平成13年町広報1月号掲載）

二十一世紀の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

また、町議会に対しましては、日頃より暖かいご理解とご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

さて、当町においても、過疎・少子高齢化が急速に進む厳しい情勢のなか、国と地方を対等・協力の関係におき、国の権限を大幅に地方へ委譲する「地方分権」が昨年よりスタートいたしました。

このことにより、各市町村の「自ら考え、自ら治める」という自己決定権の拡充は、より一層、自己責任の拡大を伴うこととなりました。しかし、こうした地方分権時代、さらには市町村合併の推進が叫ばれるなかにあつて、町の主体性・独自性を示すことのできる施策の展開は、地域間競争のなかでの町の存在を示す絶好の機会でもあります。

このことを我々議会も含めて明確に自覚し、町民が一体となって参画するなかで、勇気と英断を持って豊かなまちづくりを進めていかなければならないと思います。

こうした状況のなか、町においては昨年4月より、「総合開発計画後期実施計画」さらには「過疎地域自立促進計画」がスタートしております。介護保険や児童福祉をはじめとした総合的な福祉対策、さらには、生活環境や生産基盤の整備、定住促進対策、生涯学習推進体制整備など課題も山積しておりますが、こうした計画に基づくまちづくりの推進にあたりましては、行政、議会がともに費用対効果を十分に事前評価し、町民の意向をいかに反映させながら展開していくかを、常に念頭におきながら対応していかなければなりません。

このような姿勢を基にしながら、現在、「開かれた議会づくり」をすすめる改善策の一つとして、パソコンによる会議録の開示、議会傍聴の際に議会の進行が理解できるような資料の配付、さらには、庁舎一階ロビーでも見ていただけるテレビ放映を行なっています。

これは、傍聴される方が議会に関心を持っていただき、議会としてもいろいろな意味での緊張感を持った活発な議論を目指した対応であります。

また、各常任委員会等の活動の一環として、漁業組合、町内会連合会、社会福祉協議会、吉岡幼稚園PTAなどをはじめとした各団体との懇談会、さらには議会傍聴者との懇談会を実施し、新たな視点で町民の意向をとらえていく試みも進めているところです。

町民各位におかれましても、より一層、町政・議会に対する関心を深めていただき、自らの考えを反映させるために、いろいろな機会を通して、積極的に参加し提言をしていただきたいと思います。

議会も又、町民のための議会という原点に立ち、行政に対しては、意思決定と批判・修正・牽制（けんせい）の役割の重要性を認識し、より主体性をもって町民の皆さんの信頼

に応えるべく、研鑽を深めながら透明性の高い活動を続けてまいります。

今後は、市町村合併問題など、各自治体が広域的連携をもって課題に対処しなければならない時代となってまいります。政策の形成にあたっては、常に町民を起点とし、町民の「発意と合意」を重視のうえ、町民に対する説明責任を自覚しながら、まちづくりを進めることが必要と考えます。

厳しい状況にはなりますが、将来において禍根を残すことのないよう、心を新たにして議会活動に取り組んでまいりたいと思っております。

以上、年頭にあたり所信の一端を述べ、町民の皆様のご多幸とご健康を心からご祈念いたしまして新春のご挨拶といたします。